

アマダイ通信NO. 67b

(Tile fish network letter)

08年 紫陽花の盛季に

知人・友人各位

チベット騒乱に続く四川大地震は中国の抱える問題を浮彫りにしたが、去年の同じ頃、震源の辺りをウロウロしていた。沿海と内陸、都市と農村の格差、産業開発と住民生活向上のための投資のどちらを優先するか？限られた資源の重点投資、傾斜配分は仕方ないが、我々が体験した日本の高度経済成長に比べると余りにも落差が大きく、極端だ。

去年の5月の連休、九寨溝観光の帰途走った川沿いの一本道と、都江の沿川が今回の被災地だ。あの美しい風景がズタズタに切り裂かれ、険しい山中にこんな大都会がと驚いた町々が、瓦礫と化している。幻の「統一国家」を根拠にした統一の強制がいつまで可能なのか？その鍵は格差解消、民生向上にあるが、そちらへ舵を切れるのだろうか？

◎癌再発？・・・内視鏡でポリープ取る

4月11日の三楽病院の主治医の阿川先生の診察で、大腸癌の手術から5年経過し目出度く癌が完治した。5月連休明けの12日の月曜日に、大腸癌ステージⅢb（殆ど治癒する見込みなし・岩波新書「胃がんと大腸がん」）から生還記念？の内視鏡検査をしようということになる。家の近くの公立昭和病院で大腸癌が見つかった時の最初の内視鏡検査は、確か前日9時以降飲食禁止で、当日朝に下剤を大量に飲んだ記憶があった。そこで前日の日曜日は夕方まで特にするつもりもないだろうと暢気に、1月のスキーでの左足ふくらはぎ三頭筋一部断裂以来最初の、ゴルフの予約を入れていた。

ところが、台風接近に伴う大雨と、足場の悪い所で又怪我をすると大変との弱気からゴルフを止め、少し気になって病院の指示書と下剤を慌てて探す。大きな袋に入った下剤はみつかるが、指示書は会社にでも置いてあるらしく、みつからない。今回は下剤の他に何と検査食も3食入っている。ゴルフということで、6時頃には早々と朝食を済ませていたのだが、9時過ぎに三楽病院に電話で問合せ、慌てて検査食を食べ直す。翌朝、電車の中で催したらどうしようと心配しながら、2リットルの下剤を頑張って飲む。幸い、トイレに入る度に便器の中は鮮やかな黄金色に変わり、ドンドン色が薄れて行く。これなら大丈夫。小平から御茶ノ水まで、1時間かけて電車を乗り継ぎ、三楽病院に向かう。

お尻に穴の開いた手術着の尻を医者の方に向けると、クニクニと尻にゼリーが塗られ、先ずお医者さんの指が、続いて冷たい感触の内視鏡が尻に入ってくる。小さなポリープがありますね、とお医者さん。さては癌再発か？一瞬頭をよぎるが、医者の方は明るい。取ってしまいますからと、お腹にひんやり電極板が当てられ、一瞬の違和感と共に、ポリープは切り取られ、可愛い取りましたよ！とお医者さん。

可愛いとはいえ、見事ポリープがあったのだ！大腸癌再発の可能性もある。手術したので、取合えず一週間は、スポーツと飲酒は止めて下さいと言渡される。禁酒令解けないとビールも駄目か？再発なら余命幾許もないということになる。取合えず当日はいい子して家に帰り、ノンアルコールビール2本で我慢する。ポリープの良性か悪性か、大腸癌の再発かどうかは、病理検査と30日の阿川先生の診察を待つことになる。

◎翌日もいい子？酒席で酒飲まず！CTで尻まで熱く！

再発なら余命幾許もなし？取合えず内視鏡でポリープを取った翌日もいい子をする。新会社の取締役会中に、内視鏡の後遺症でお腹ゴロゴロ。柄になく少し気になり、焼肉屋での懇親会ではウーロン茶をチビリ、チビリ。余り盛り上がらない。再発でもポリープ段階で切り取れば大事に至らない筈。もぐら叩きみたいなもの。できたら都度、切り取ればいい。大腸は長いから、まだ数回は切っても大丈夫！？最先端のPETと重粒子線の照射療法や、手術とX線照射、抗がん剤投与を組み合わせた統合治療等、打つ手はまだ色々ある。癌も今では早期に発見し、打つ手を間違えなければ直る病気だ！闘病にかかりっ切りで、病に振り回されるのではなく、人の役に立ちながら最善を尽す！人はいずれ死ぬ！と意気軒高でも、多少気になるのは人の性？

翌週月曜9時、お茶の水の三楽病院で腹部のCTを撮るので、7時半に家を出て満員電車に乗る。山手線で肩から離れたカバンが宙に浮く。新宿では中央線快速電車を避け、総武線の各駅停車に。少子高齢化とはいえ、まだまだ首都圏の過密は続く。上半身ボタンのない検査着に替え、ベッドに横たわると、真ん中に丸い穴の開いた機械が音を立て回り出す。左腕の細い静脈がやっとみつき、造影剤が全身に隈なく周り、尻まで熱くなる。機械の大きな穴をお腹が何度か行き来し、息を吸って！止めて！を数度繰り返し、撮影は終わる。

火照る体を早く冷まさなくては！生ビールで造影剤を体外に早く出そう！？会食しながらの打合わせをいいことに昼からビール。ポリープを切除、1週間はお酒を控えて下さいと言われたが、アルコールで血管が拡大して大腸の傷口から出血するのを防ぐのが目的だから、血便が出ている訳でもない、禁酒宣言は解除だ！と医者になり代わり禁酒解除宣言し、休肝も三日坊主で終了済。1週間のスポーツ禁止も、個人差がある、誤差の範囲内だと1日早く解除、腹部CT前日の日曜日に、4ヶ月振りにゴルフクラブを振る。

更に翌週の月曜日胸部CT、金曜日に主治医の診察を受ける。幸いポリープは良性の5ミリ程の腺腫で、できても定期的に内視鏡で取っていけば問題ない。血液検査もCTの結果も問題なし。大腸癌の再発ではないと胸を撫で下ろす。ソニー生命の村中君に電話すると、ポリープを手術すると、1日1万円の入院・手術保険に入っているので日帰り手術でも10日分、10万円の保険金が出るという。他2社からも1日5千円の10倍ずつ出る。体を痛めて保険金を貰っても仕方ないが、結構な掛け金を払っている、ありがたく頂く。

◎夏服寸法直し、メタボ対策のゴルフ？ようやく再開へ

5月の連休が終わると、衣替えの季節。夏服のパンツに足を通してみるとウエストがきつい。全部チェック、スーツ6本と替ズボン1本のウエストを、近所の直し屋さんに93センチに広げてもらう。男の85センチ、女性の90センチ超はメタボリックシンドロームだと大騒ぎの折、男で90センチを軽く超えてしまった。学生時代のウエスト76センチ、体重61キロが懐かしい。何か運動しなくてはいけないが、ただ歩くのも単調だ。スキーで足を怪我して以来、5月半ばに4ヶ月ぶりにゴルフを再開する。

土曜夜、雨が強く降り心配したが、朝、娘と家を出る時は小降り。小川カントリーに着くとほとんど雨は上がり、午後は時折陽も射し蒸し暑い。結構陽に焼ける。足の怪我は気にせずプレイでき、スコアも53、56と百台でマズマズ。足場も悪いから、藪に打込んだら無理に球拾いはせずと、ロストボールを沢山持って行ったのだが、少し増えてしまう。

翌週日曜もゴルフ日和、55、46のトータル101で、自己ベスト。この分だとスキーも大丈夫だと、少し自信を持つ。

4月の血液検査でγGTPが初めて三桁の120になったのは要注意だが、それ以外の血糖やコレステロール値も問題なしで、正確にはメタボではないが、身長168センチで、ウエスト90センチ超、体重70キロ超は問題だ。体内に入れるカロリーと出すカロリーの差が問題だから、口が寂しいのが嫌なら、使うカロリーを増やせばいいと考えるのが、酒飲みの常だ。そのためには先ず歩くことだと、松葉杖を捨ててから使っていた自転車を止め、小平駅まで歩くことにする。タクシーも極力使わないようにする。靴も水虫対策のために皮底の靴を履いていたのを、怪我した足のふくらはぎが腫れる感じがするので、ゴム底の靴に替える。

売る内容は若い時の“革命”から様変わりしたが、根っからの営業マン、平日は電車や地下鉄を使い結構歩くが、土日は図書館で雑誌を読むことが多い。一人ただ歩くのも、群れるのが好きな意志薄弱人間には辛い。幸い怪我也治ったことだし、一日はゴルフかスキーで体を動かすのを心がけよう。8万円で会員権を買った小川カントリーなら、小平から所沢インターまで30分、嵐山小川インターまで20分、高速降りて10分の、1時間で行く。赤いコペンをオープンカーにして飛ばすが、軽自動車なので高速代も千50円と安く、ガソリン代も大してかからない。キャデイなしだと食事しても7千円。仲間と緑のグリーンをワイワイラウンドして、体を動かして運動、1万円も使わないのだから、パチンコで時間と金を消費するよりは有意義だ。メンバーになってくれた三鷹寮で一緒の農水省OBの小畑君や文科省OBの伊勢呂君、それに自治省OBの片木早大教授、学生時代のアルバイト仲間の乗換案内のジョルダンの佐藤社長もよく付き合ってくれる。ゲストでも土日、食事つきで1万5千円ほどでプレイできるので、更に仲間を募りたい。

◎キューバツアーに続き、動乱のチベットツアーも中止、ユーゴへ！

3月の年度末には、カストロ存命中にキューバを見ておきたいと、キューバツアーを申し込むが、集客が少なく催行されず。5月の連休は天空列車に乗ってチベットに行ってみようとしてチベットツアーを申し込む。ツアーは成立したが、今回の動乱で中止の連絡。そこで急遽、チトウ大統領の下、独自の社会主義路線を歩み、チトウ死後、内乱を経て連邦解体の道を進む、旧ユーゴスラビア連邦諸国へ飛ぶ。

①ユーゴの轍踏む？中国

久振りのユーゴの勉強の手始めに、ユーゴ現代史（岩波新書）やバルカン半島至急報（徳間文庫）を読む。スターリンに反旗を翻し自主管理と非同盟主義を掲げるチトウのユーゴを、毛沢東の中国は修正主義と非難した。フルシチョフのスターリン批判後、ソ連を中国はユーゴと同じ修正主義と批判しつつ、超大国批判ではユーゴと手を握り、非同盟主義の共同歩調を取る。更に「改革解放」以降中国は、「社会主義市場経済」の名でユーゴと同じ「自主管理路線」を取る。

豊かな北のスロベニアと貧しい南のマケドニアまで、経済格差に起因する地域対立、複雑に入組むセルビア、クロアチア、ムスリム、アルバニア等の民族対立が絡み、統合の要のチトウの死後、ユーゴは内戦を経て四分五裂した。チベットで、新疆で、経済格差が拡

大し、民族対立がくすぶる中国はユーゴの後を追うことはないか？

入組んだ多民族国家、複雑な歴史、耐え難い経済格差、それをまとめ連邦を治めたのがパルチザンの英雄、建国の父チトウだが、民族、歴史、格差と中国も同じ矛盾を抱える。それを労働者農民の同盟による社会主義建設を掲げる共産党が統一して、ここまで引っ張ってきた。だが改革解放と先富論に基づく経済発展で格差が拡大し、社会主義の旗も色あせた。代わりにナショナリズムを煽ると、チベット、ウイグル、回族等少数民族の民族意識も高揚、経済格差も絡め、東北、内蒙古も含め分離・独立の機運が高まる。チトウ無きユーゴの問題は、優れて中国の問題でもある。そして旧ソ連圏の問題も、同じ意味で中国の一つの未来形であり、それを占う上で重要である。

②ヘルプアライアンスとEHMと殺戮と

成田から、ミュンヘン経由でクロアチアの首都ザグレブへ。ルフトハンザの機内で「エコノミック・ヒットマン」（東洋経済新報社）を読む。EHMはコンサルやエンジニアリング会社の社員として、世界各国の指導者をアメリカの商業利益を促進する巨大なネットワークに取り込み、最終的に負債という罠に絡め取り、忠誠を約束せざるを得なくし、政治的、経済的、軍事的必要がある時に彼等を利用する。引換えに彼等は工業団地や発電所、空港を国民に提供、元首としての基盤を固められ、アメリカのエンジニアリング会社や建設会社に莫大な利益を得させる。EHMの手に負えなければCIAが暗躍、更に米軍が出動する。何やらロッキード事件の田中角栄、インドネシアのスハルト等の興亡を彷彿とさせる物語だ。91年からのバルカン戦争も同じ構図か？

機内で、世界の恵まれぬ子を救おうという、LHのヘルプアライアンスにカンパする。しかし唯一の帝国アメリカが、発電所、港湾、道路、鉄道等が途上国の開発に必要なだと世銀等の国際融資を受けさせ、大規模建設工事のプロジェクトを通じ、ベクテルやハリバートン等の米企業に資金を還流させ、一部は途上国の支配者の懐に入る。エコノミックヒットマンの画策で雪達磨式に債務を増やす結果、途上国経済を破綻させ、軍事基地設置や国連での投票、天然資源獲得等でアメリカにとり有利な条件で取引せざるを得ないように追込む。言うことを聞かなければ更にCIAがクーデターや暗殺を画策、それも奏効しなければ米軍を派遣、帝国の支配を貫徹する。結果富める者は益々富み、貧しい者は更に貧しく、帝国の力には抗い難いとすれば、恵まれぬ子達のためにすることは何か意味があるのか？

更に唯一の帝国の意に逆らえぬ日本の政府開発援助は如何なる意味を持つのか？クーデターで地位を追われたインドネシアのスカルノ、ピープルパワーで亡命を余儀なくされたフィリピンのマルコス、凶弾に倒れた韓国の朴正熙の末路は何を意味するのか？日本の借款や援助は唯一の帝国に手を貸し、補完するだけだったのか？91年からのユーゴ解体時に、民族浄化阻止と民族自決を旗印にユーゴ内戦に介入し、激しい空爆を行ったNATOの役割は何だったのか？ドイツのフィッシャー外相等、60年代のシュトゥデントパワー世代の政治家の役割は？NATOの爆撃への彼等の同意は許されるのか？興味は尽きない。

③東の九寨溝、西のプリトビツェ

クロアチアの首都ザグレブ。聖母被昇天大聖堂や聖マルコ教会、共和国広場、石の門等を見学する。ヨーロッパならではの、歴史を感じさせる美しさだが、大聖堂近くの公衆

トイレはモダンで清潔だ。便座の後から青いプラスチックタンクが前に出、楕円便座がクネクネ回転して消毒するのには驚いた。市場は露天の屋台にも物が溢れ、野菜や肉、魚を天秤で秤り売り。見たこともない野菜や名も知らぬ魚が、遠い異国にいること意識させる。鯛と飯蛸、ジャガイモのフライを摘み立話する男女四人にご馳走になる。お返しにインスタント写真を撮ってやり、盛上がる。戦争中もかくも屈託なく談笑できたか？広場に色採りどりのトラムが走る。石造りの歴史的町並と最先端交通システムが共存する。

ザグレブから2百キロ走り国境を越え、旧ユーゴで最も豊かなスロベニアのブレッド湖へ。美しい新緑の間に赤い瓦とクリーム色の壁の綺麗な集落が点在する。雲間に雪を頂く山頂が見え隠れするとオーストリア、イタリアとは山一つ隔てたリゾート。チロルと似た佇まいだ。冬は20センチの水が張りスケートとスキーが楽しめ、夏でも26度の避暑地。一周6キロのサイクリングを楽しみ、ミズスマシの様に細長いボート滑らせる漕ぎ手達。桜咲く湖岸にチトウ大統領の別荘があり、今は500平米のスイートもある高級ホテルに姿を変えている。手漕ぎボートでブレッド島へ。湖を見下ろす古城で七面鳥の昼食を摂る。ビールの小瓶もコーヒーも2.5ユーロ。

再度入出国手続きをして新緑の映える「西の九寨溝」、クロアチアのプリトビツェ湖群へ。大小16の湖が時に紺青、時にエメラルドの水を湛え、無数の滝が湖群を繋ぐ。滝の高さと数の多さ、遊覧船まで走る湖のスケールではプリトビツェか？湖の色の深みと流れの雄大さ、湖水に映える、白雪頂く山の高さと美しさは九寨溝か？新緑の美しさと湖の数、青池の蒼の神秘さ、海岸線の美しさでは我が白神山地の十二湖も負けてはいない。九寨溝は便座に消毒薬入りのビニール袋を取りつけて快適トイレを実現していたが、こちらは完璧な水洗トイレだ。九寨溝では●の巨大な？一物がビニールの袋に時につかえて不快だったから、トイレはこちらの勝ちだが、汚水はどう処理しているのだろうか？今や垂れ流しでは世界遺産の指定は無理なのだ。我が日本トイレ協会も快適トイレの実現に腐心する、富士山の世界遺産指定はいつされるのだろうか？

④まだ続く民族浄化、今も残る弾痕、美しいブナの新緑の中にトウチカ？

大きな湖を15分程船で横切る。ブナの新緑の間に碧の小さな湖が点在し、せせらぎが流れ落ちる。美しく静かに時の流れる人里離れた地が、ナチスとチトウ率いるパルチザンの激戦の地となり、最近も、クロアチア独立戦争の主戦場になって破壊され、世界危機遺産リストに載ったという。見れば林の中に古いコンクリートの小さな構築物。第二次大戦のトウチカだという。斜面を利用した二階建て。独立戦争でも「廃物利用」された。大地は血に汚されても尚美しくそこに在るが、難民となったセルビア人は報復を恐れて戻らず、スロベニア人のガイドもそれを悪びれる風もない。未だ民族浄化は続く（「終らぬ『民族浄化』セルビア・モンテネグロ」《集英社新書》）。彼らが再び笑顔で交わる日は来るのか？

クロアチアからスロベニア、更にクロアチアへ。その都度の入出国手続きが煩わしい。数百年、いや千年以上もの長い間に、今やそれぞれの申告で帰属する民族を決めるしかないほどに、住む場所も、血すら複雑に入り混じってしまった。それを21世紀の今も、民族自決というもっともらしいスローガンの下にむりやり分離、細分化し、殺し合う愚を繰り返す。何故独立を欲したと聞けば、豊かなスロベニアの富が、何故貧しい地方のために使われなければいけないのかと答が返る。

旧市街を残す都市は歴史を感じさせ、街並みが美しい。農村の新緑も美しいが、麦畑を除き耕す景色は見掛けず、家畜の姿も少ない。雪深く、冬季オリンピックが開かれる内陸の豪雪地帯ゆえ、耕作はこれからなのか？スロベニアの農家は大きく、綺麗に手入れされているが、クロアチアのそれは小振りでも手入れも悪い。しかし富む者、強者が、何故弱い貧者を助けられないのか？間に横たわる異民族と歴史の深い溝。農家の壁には弾痕が今も残り、ミサイルが突き刺さった戦車が雨ざらしになっている。

⑤分別でなく、今少しの「狂気」を！アドリア海で泳ぐ！

アドリア海の真珠ドブロブニク。瀟々なリゾートホテルの目の前の紺碧の海を、白亜の御殿の如き豪華客船が滑る。一昨年今頃ギリシャを旅した時は、水温が低く泳げなかった。ユーゴはもっと北だから泳げないと思いながらも海パンは持って来た。アドリア海でも泳いでみたい！海辺に降り手で水を掬うと何となく泳げそう。明早朝のフライトだから今しかない。急いで朝食を済ませ海に飛込む。眼鏡越しに綺麗な水底。朝の水は長く浸るには冷たい。早々に上がる。馬鹿なことをと思いながら又、やっってしまった。歴史が進む時は分別よりも「狂気」が働く。若き●然り。ユーゴ、お前もか！

50クウナ（1クウナ約23円）払い、世界遺産ドブロブニクの城壁上の遊歩道を巡る。今回の独立戦争で、狭い旧市街に2千発の砲弾が打込まれ、3ヶ月間水も電気も止まり、300人が死亡、350人が負傷したという。戦争の傷跡は綺麗に修復され、観光客でごったがえし、大型客船が数隻優雅な姿を横たえる。人々の心に打ち込まれたミサイルの傷は癒えたのか？それとも古代から繰り返されて来た略奪と殺戮の記憶が積み重なり、いずれ又報復の炎が吹き出すのか？殺られる前に殺れ！屹立する城壁の遙か下に深い憂いを湛えた紺青の海。茜色の花咲く屋根の向こうの煙突の上に、一羽の白い鴉。

世界遺産古代ローマの要塞都市コトルへ、更にアドリア海を南下。申訳程度の出入国審査で「外国」へ。こんなものなら国を分ける必要があるのか？国境越えのガソリンスタンドでビールのスモール缶が0.7ユーロ、ロング缶が1ユーロ。0.8ユーロのショート缶も。安い物が少ない。クロアチアに比べ古い車が多く、家並も貧相だ。深く複雑に入組んだ入江に沿って走る。フェリーで対岸へ。5分の舟賃がバスごと14ユーロ。トンネルを抜けると氷河に削り取られたフィヨルドの奥、高い石灰岩の山の麓に難攻不落の城塞都市がある。オスマントルコも攻略できなかった城壁が、取り残された様に黒ずみ山に延びる。ドブルブニクに比べるべくもないが、賑わうカフェ。人々の心の要塞はいつなくなる？

◎変貌する地図と測量・・・東大三鷹クラブ第79回定例懇談会のご案内

小牧 和雄君（国土地理院長、昭和45年入寮）とは高校1・2年時がクラスメート（鹿児島ラサール高校）、同時期に入寮し、仏文研なる同好の士の集団に属していた期間を短いながら共有していたように記憶するが、彼は4年間も三鷹寮の北寮にいたそうである。教養時代、ボート部に入部し体力強化に努めていた時期があり、最初の山中湖合宿から三鷹寮に帰って来た時だったか、「1,500メートル走で5分を軽く切れるようになった。」いや正しくは「4分30秒台で走れるようになった。」だったか、酒に誘われた場で語ってくれた記憶が残っている。単調な持久走訓練にも取り組める克己心に脱帽！当時、寮で麻雀の面白さに感嘆していた凡俗の小生らには眩しかった。

高校時代から「無欲恬淡。頭脳明晰にして奉仕の精神にも富み、誰もが嫌がる“生徒会長”を務めてくれた」人物である。スノッブな要素の全くない、ストイックで物静かな雰囲気漂わせていた好漢である、とは小生の40年間見てきた変わらぬ印象である。高校時代から東大入試のなかった年の駿台にかけての俊秀ぶりは際立っていたが、理Ⅰから天文学科に進み、国土地理院長となった人生航路を思料するに、以下の要因が浮かぶ。

「鹿児島には、島津藩主重豪公が天体観測所を作って、現在の有名な繁華街、“天文館”の地になった歴史的な事実。天文好きの風土あり。」「ラサール学園には、昭和30年代から天体望遠鏡を備えた天文台があり地元の理科系少年には憧憬の的であったに違いないこと。(残念ながら、現在は無い。)」 「その天文台をグリップし、地学・生物を教えていた名物教師の山口志摩雄先生の薫陶を小牧君は受けていたような記憶がある。小生の記憶では、当時ご高名だった東京天文台の村山定男教授とは友人である、と山口先生は語っていた。奈辺のウンチクに接していた?」「高校の大先輩にハワイに設置された、すばる望遠鏡に深くかかわった成相恭二氏(国立天文台名誉教授)がいたことも要因・誘因になったか。」 いずれも正鵠は射していない、程遠い推測かとも思いつつ――。

先頃、三鷹クラブ平賀代表(元労働省局長)の御供で、つくばの国土地理院に小牧院長を尋ねた。お蔭で、小牧院長直々のレクチャー・院長自らの視察案内の設定に、身に余る厚遇を受けた。多くの方に、つくばの国土地理院見学(施設は開放)をお薦めする。

国土地理院の近年の取組み(地球地図構想、防災・災害復興への関与、地震予知ノウハウ、etc.)が中心と思うが、四川大地震、岩手・宮城内陸地震の後でもあり、その辺の事情も紹介して貰えると有り難い。(文責 昭和45年入寮 益田孝志)

日 時：平成20年7月11日(金) 18時30分～21時

場 所：学士会館本館203号室(千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931)

会 費：5000円(会場費、夕食代・ビール代、通信費など込み)、別途二次会あり。

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎おでん屋開業！？寮生と遅くまで盛り上がる！

夏期試験のモードに入る前にと、寮の自治委員諸君と久しぶりにコンパ。いつもの様におでん屋を開業、ピザと寿司も取って歓待。今回の出席者は上田 大斗(2008年入学・理Ⅱ・京都府、西大和学園)；宮本 洋之(2008年文Ⅰ・大阪府、洛南)；王 悠介(2007年・理Ⅱ・中国→京都府、洛南)；乙村 浩太郎(2007年入学・SⅡ・熊本)；名取 龍一(2007年・SⅡ・磐城)；中野 雅之(2008年・SⅡ・筑紫丘)；實川 節朗(2008年・文Ⅲ・兵庫、白陵)；田代 勇太(2007年・SⅠ・福岡)の現役組に、パレットプロジェクトを手伝ってくれている亀石 幸夫君(S45年入寮)とWPT相棒の原島社長(S45年入学)も飛び入り、平賀代表(S26年入寮)も加わり、世代を超えていつものように盛り上がる。

◎着実に成果上げる植樹協力、あなたも参加しませんか？

6月に入り産経新聞に緑の地球ネットワーク(GEN)の、中国山西省大同市での黄土高原緑化プロジェクトの記事が4回連載され、朝日新聞夕刊1面の人・脈・記にGENの高見事務局長の記事が載る。10チャンネルのキャスターもする加藤千洋記者が現地取材し



書いた。NHKラジオ深夜便で、高見君のインタビューも好評で再々放送される。も理事で協力するGENの黄土高原緑化活動が着実に成果を上げ、内外で評価を高めるのは嬉しい。数日後の朝刊には、マレーシアクアラルンプール近郊の、国立公園内の錫鉱山跡の荒地を緑の森に変えた、ジャスコの植樹協力の全面写真広告も載る。美しい緑の森の木の何十本かは、3年前にイオン環境財団とジャスコの植樹ツアーに参加して自分が植えたものだ、と思うと感無量だ。(GENの[URL:http://homepage3.nifty.com//gentree/](http://homepage3.nifty.com//gentree/))

◎今年の🐟版カモメール当選番号は下二桁67番

読了ありがとうございます。感謝の意を込めて、3千人の愛読者の皆様の中から、封筒の表の番号下二桁67番の方に、今年の夏も故郷白神の味を贈らせていただきます。再見！